教員名	井原　成男　(IHARA　Nario)
所　属	生活科学部人間生活学科発達臨床心理学講座
学　位	文学修士
職　名	教授
URL　／　E-mail	http://www.develop.ocha.ac.jp/ihara.html　／　nihara@nifty.com

◆研究キーワード

臨床心理学　／　発達心理学　／　移行対象　／　アタッチメント　／　摂食障害

◆主要業績　　総数　（　8　）件

・　移行対象の臨床的展開―ぬいぐるみの発達心理学.岩崎学術出版社,2006.
・食と身体の臨床心理学―摂食障害の発達心理学．山王出版，2006.
・摂食障害の事例研究.亀口憲治編：臨床心理行為研究セミナー,現代のエスプリ別冊：169-178,2006.
・育児相談場面のプロセス分析による治療・相談プログラムの開発―その２、
家庭・学校・地域における発達機器の診断と臨床支援，お茶の水女子大学２１世紀ＣＯＥプログラム「誕生から死までの人間発達科学」第Ⅱプロジェクト最終報告書,11-20,2007.　（共著者　宮本友宏）

◆研究内容

発達臨床心理学講座の中で、特に病院臨床　(小児科臨床）的な研究をしている。医師でないものがかかわるメリットを生かすために臨床心理学を、発達心理学的に基礎付け、将来的にはまやかしものでない発達臨床心理学という応用分野を確立することを目指している。具体的には、摂食障害の症例の積み重ねを基にして、発達心理学的にどのように理解したらよいか、またその基礎付けた知見を臨床現場や本コースで学ぶ臨床心理士志望の院生にどのように還元するかの研究をしている（主要業績１)。
さらに子どもの母子関係における愛着の発達と離脱について、移行対象という具体的、普遍的な現象に基づいて研究、応用するという研究を行っている（主要業績２)。

◆教育内容

学部では、臨床心理学的なもの、特に実践的な内容を伝える仕事をしています。科目は基礎論、人格心理学、心理テストの臨床的応用などです。
大学院においては、日々現在も継続している臨床現場の仕事を、どのように学的体系の中に位置づけ、当然それは自分の体験を深化させるものなので、ユニークなものになるわけですが、それを個性的かつ普遍の体系の中に位置づけ、そうした学的追求が、翻って、また以下に実践そのものを深く有効なものにするか、大学院ではそのような視点で心理臨床の中でも実践的な部門である、カウンセリング、心理療法等を教えています。

◆共同研究例

育児相談場面のプロセス分析による治療・相談プログラムの開発

◆将来の研究計画・研究の展望

これまでに積み上げてきた臨床心理学的な知見と経験を、発達渉外的な基礎論の中に位置づけ、それを発達臨床の中に位置づけ、学的確立を目指す。

◆受験生等へのメッセージ

学部生
単に学問的な深化を目指すのみでなく、身の回りに起こっていることを、単に心理学的な興味だけでなく、社会的･政治的観点も含めて総合的に見ていける、しなやかな感性を持っている人を求めます。つまり視点の広い人ということです。
院生
　対象化した病理（「他者の病理」、「私の友達の病理」「社会の病理」）のみでなく、自分自身を振り返る能力と勇気のある方を求めます。それは常識のある普通の人ということかもしれません。
　教員と学生の平等を基本としますが、本質的にはこの２者は権力関係にあることも念頭においています。そうしないと、共有という名の強要、支援という名の管理、他者からの支えという名の依存を助長してしまうからです。
　言葉のまやかしに飲み込まれない、真の教養人作りも同時に目指します。そうしたセンスを身につけた研究者、臨床家のみが、この社会を幸福にする研究をすることが可能になるからです。